

# ケア・スピリット論 I (倫理のあり方)

単位数 (時間数) : 2 単位 (30 時間) 必修/選択 : 必修 履修年次 : 1 年次 開講時期 : 前期

科目責任者 (職位・氏名) : 教授・清水哲郎

科目担当者 (職位・氏名) :

---

対応DP : 基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢  
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号 : 1

## ■ 授業概要

看護実践のために必要な能力を「状況を適切に把握する知的能力」と「ケア・スピリット：自ら進んでケアをしようとする姿勢」とした上で、前者を第1部で、後者を第2部において学修する。第1部では、言語に注目しつつ「事実はどうのようにして事実だと確認できるか」を考え、明らかな事実から論理的に言えること、および科学的推理の方法により言えることの意味を深める。これらを看護学の科学的知識の基礎とする。第2部では、人間における倫理のあり方から医療ケアの倫理原則を導出した上で、ケアの倫理と徳の倫理を理解し、ケア・スピリットを倫理的諸姿勢の統合体として、かつ看護職者として生涯にわたり熟達を目指すものとして理解を深める。

## ■ 到達目標

1. 人間の言葉や行動を哲学的に分析することができる。
2. 状況に応じて論理的に思考することができる。
3. 自然科学の知識の有効性と限界を理解し、学問的知識を適切に評価できる。
4. 社会において成り立っている倫理の構造と意義を理解し、社会人として倫理に参加する。
5. 看護職者としての倫理とケア・スピリットを理解し、自らの看護実践に備える。

## ■ 教育内容

科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解

## ■ キーワード

ケア・スピリット、哲学、言語、事実、現象、論理、知識、意志、倫理、人それぞれ、皆一緒、倫理原則、ケア、徳、QOL、人生、生命、相応性、意思決定プロセス

## ■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	序1：看護実践に必要な能力	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動を状況に向かう姿勢と状況の把握に分析する</li> <li>2. 看護実践における状況に向かう姿勢と状況把握を考える</li> </ol> <p>☆授業は講義によるが、できる限り毎回ワークないしグループワーク（GW）を交える</p>	清水
2	序2：言語と世界	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ことばの《意味》</li> <li>2. 生活と分類（類一種）</li> <li>3. 言語の「記述する」機能と「働きかける」機能</li> </ol>	清水
3	事実と論理1：事実	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在の直接明らかな事実</li> <li>2. 現在の直接明らかではない事実</li> <li>3. 過去・未来の事実</li> </ol>	清水
4	事実と論理2：推論と論理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言明の論理構造</li> <li>2. 複数の言明間の論理的関係</li> <li>3. 行動をもたらす論理</li> </ol>	清水
5	事実と論理3：科学的知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学的知識の成り立ちと帰納法</li> <li>2. 観察された事実—観察できない構造</li> <li>3. 科学的知識はどの程度確実か</li> </ol>	清水
6	ワーク 論理と科学的思考	第3～5回で学んだ思考法の練習（GW）	清水
7	人間の行動と知・情・意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感情について</li> <li>2. 理性による感情のコントロールと陶冶</li> <li>3. 意志の成立</li> </ol>	清水
8	倫理一般と市民の倫理1：倫理とは何か	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理とは</li> <li>2. 倫理原則と「線引き」</li> <li>3. 倫理的に適切な行動の構造</li> </ol>	清水

9	倫理一般と市民の倫理 2: 倫理の成り立ちと広がり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理の起源: &lt;皆一緒&gt;と&lt;人それぞれ&gt;</li> <li>2. 社会のあり方の基礎にある倫理</li> <li>3. 医療・ケア従事者への社会的要請</li> </ol>	清水
10	医療・ケア従事者の倫理 1: 倫理原則	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療・ケアの倫理原則</li> <li>2. 倫理原則に関するさまざまな考え</li> <li>3. 尊厳と「人間尊重・与益・社会的適切さ」</li> </ol>	清水
11	医療・ケア従事者の倫理 2: ケアと徳の倫理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアの構造と倫理原則</li> <li>2. ケアということ: 思いと行動</li> <li>3. 徳の倫理・ケアの倫理 (ケアリング)</li> </ol>	清水
12	医療・ケア従事者の倫理 3: ケア・スピリット	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケア・スピリットの萌芽と成長</li> <li>2. ケア・スピリットと倫理原則</li> <li>3. ケア・スピリットと徳の倫理</li> </ol>	清水
13	医療・ケア従事者の倫理 4: 人間にとっての最善	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人生と生命</li> <li>2. QOL: 人生・生活の質</li> <li>3. 益と害のアセスメント</li> </ol>	清水
14	医療・ケア従事者の倫理 5: 合意を目指す意思決定プロセス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な意思決定プロセス</li> <li>2. 情報共有ー合意モデル</li> <li>3. 患者本人と家族の意思決定支援</li> </ol>	清水
15	ワーク 授業全体の振り返り	授業全体の振り返り・質疑応答・課題への取り組み (GW)	清水

## ■ 履修条件

特になし

## ■ 成績評価方法

授業への積極的参加・質問への回答 30%、期末試験 70%

## ■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・授業中に提示する質問への解答（Classroom 使用）については、次の授業時に解説を行う。
- ・期末試験については、試験後に採点基準と解説を Google Classroom に掲示する。

## ■ 教科書

- ・清水哲郎著（2022）『医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学』医学書院
- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版（関係箇所を適宜参照する）

## ■ 参考書・参考資料等

- ・清水哲郎、会田薫子、田代志門編（2022）『臨床倫理の考え方と実践 医療・ケアチームのための事例検討法』東京大学出版会

## ■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業 1 コマにつき、事前・事後学修として計 45 分程度必要とする。
- ・授業前後の学習は Classroom に掲示し、授業時に指示する。シラバスに則って授業に先立ち教科書の該当箇所等を提示するので、そこを予習し、授業後には教科書の復習および授業中に示された質問等の課題に対応する。

## ■ 担当教員からのメッセージ

この授業は、単に知識を得ることではなく、先入見にとらわれず自由に考える力、様々な情報を主体的に自分のものにする力を養うことを目指すものです。間違わないように、おかしいことを言わないようにと引っ込み思案にならずに、一緒に考えて下さい。

Google の Classroom を使って、予習・復習の案内や課題提出などをします。

## ■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

臨床倫理研究センター長室、shimizu★iwate-uhms.ac.jp、特に定めません。話したいこと・質問したいことがある場合は、まず上記のアドレスにメールをして、面談のアポイントメントをとって下さい。

(※メールの際は★を@にしてください)

## ■ 担当教員の実務経験の有無

有

## ■ 担当教員の実務経験

臨床現場で実際の事例についての検討を医師・看護師と共同で行い、また臨床倫理研修会等で指導しています。

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

## ■ 実務経験を活かした教育内容

臨床現場から出された実際の事例についての臨床倫理事例検討の実践および検討法の研究開発を踏まえて、実践に役立つ倫理を講義しています。